

Navi.3 みんな大切な サッカーの仲間です

こんなクラブ、こんな指導者に出会っていますか？

クラブ

- 01 クラブの指導理念がしっかりとしている
- 02 クラブの指導方針をもっている
- 03 クラブ運営の基本がプレーヤーズファースト※1である
- 04 クラブ・保護者・選手との間でコミュニケーションがとれている
- 05 子どもたちが楽しくプレーできる場がある
- 06 指導者間での考え方が一致している

※1プレーヤーを第一に考えること

コーチ

- 01 子どもが好き
- 02 情熱がある（研究熱心・向上心）
- 03 明るくさわやか（言葉づかい・服装・礼儀正しい・あいさつ）
- 04 忍耐がある（指導には時間がかかる）
- 05 子どものレベルに自分をコントロールできる
- 06 モラルがある
- 07 デモンストレーション（実際にやってみせること）ができる
- 08 オープンマインド※2である

※2 心を開いて人の意見を聞き入れられること

選手はコーチの鏡です。



Navi.3

みんな大切な
サッカーの仲間です

クラブの考えを 聞いてみて

信頼関係があれば解決できることが
たくさんあります。



自分の子どもが試合に出られない、選ばれない、思ったように評価されないことに対し、クラブの考えや判断の基準がおかしいと思うことがあります。自分の子どもの可能性を信じるからこそ、そういった気持ちになるのでしょう。

クラブを選ぶ際に、まず初めにクラブの方針や考え方を確認しましょう。クラブの側もそういった機会をもつべきであると思います。

クラブにはさまざまな考え方、方針があります。それを確認し、納得したうえで選ぶのがよいでしょう。そのうえで、疑問や不安があれば、必要に応じてコミュニケーションをしっかりととりましょう。指導者には指導者の考えがあるはずです。それに耳を傾けてみましょう。

「なんだか知らないけど鬼ごっこかいろいろなゲーム、活動をやっていて、いつまでたってもサッカーらしいサッカーを教えてくれない」とクラブを移っていった親子がありました。

実は、サッカーにはいろいろな要素があり、それを身につけさせるためには、いろいろな方法があります。特に

子どものころには、身体の使い方や敏捷性、判断といったことを身につけさせるのに、さまざまな鬼ごっこは最適な練習なのです。

あるいは、11人制でプロのようなオーメーションで戦術的なサッカーを隣のクラブではやっているのに、4人ずつのゲームばかりやっているクラブもあります。それはなぜでしょう？

子どもにサッカーを効果的に学ばせるためには、まずボールがたくさん触れることが大切です。11人制でやればボールはほんの数回しか触れない子どもも、4対4をやれば誰でもたくさんボールに触ることができ、シュートすることがができます。しかも状況はシンプル。走る距離もける距離も子どもの身体に無理がありません。だから意図的にやらせるのです。

このように、一見サッカーに直結していないことをしている指導者でも、長い目で見て、子ども時代により大切なことに時間をかけているのかもしれない。そういった意図も、不思議に思ったら、聞いてみてはいかがでしょうか？

Navi.3

みんな大切な
サッカーの仲間です

みんな大切な仲間

サッカーに「敵」はいません。

サッカーの試合でも、チーム競技であるにもかかわらず、自分の子どもの一挙手一投足に必死の声援を送り続ける大人はたくさん見かけられます。それが昂じて、相手チームに罵声を飛ばし、勢いあまって味方の子どもにまで怒鳴ってしまう大人もいます。自分の子どもかわいさとはいえ、これは子どものスポーツの場にそぐわない光景です。

サッカーは仲間がいなくてはできません。仲間の大切さに気づきましょう。仲間と助け合うことこそ、サッカーの大きな特徴の一つです。それはチームメイトだけではありません。相手チームもそうですし、レフェリーもそうです。みんながそろって試合が成り立つのです。みんなサッカーを愛する仲間です。みんな子どもにすばらしいサッカー環境を与えようと努力している仲間です。

もちろんみなさんも大切な私たちのサッカー仲間です。



私たちは相手チームを「敵」という言い方はせず、「相手」と呼びます。それはサッカーをするための大切な仲間だからです。

自分の子どもばかりでなく、チームメイト、そして、相手チームにも、みんなの良いプレーに拍手をしましょう。

Navi.3

みんな大切な
サッカーの仲間です

サッカーを知って いるお父さんへ

余裕をもってやさしい気持ちで
見守ってください。



若い頃にご自分でもサッカーをやっている、ついつい子どもがやっていることが気になって、口を出してしまうお父さんがいます。「走れ!」「そうじゃない!」なんでおまえは…」。

また、チームやコーチに対しても、「おれが若い頃にはもっと…」 「そんなことをやっているのは駄目だ!」「もっと厳しく練習しないと」「戦術練習が足りない!」などと、歯がゆさを抑えきれないお父さんもいます。

サッカーが好きで、つい黙っていられないのでしよう。

サッカーも年々進歩し、大きく変化しています。世界のサッカーはどんどんレベルアップしています。また、サッカーには非常にいろいろな要素があり、一面的には処理できないところがたくさんあります。いろいろな考え方があり、いろいろなやり方が

あります。

コーチは、一生懸命勉強して、良い指導をしようとしています。指導者養成講習を受けてライセンスをとったり、その後もさらに研修を受けて勉強したりしています。それを尊重しましょう。

コーチはコーチに任せましょう。

でも、良いものは伝えてください。ご自分がやってきて、良かった経験をぜひお子さんに伝えてください。ご自分が良い経験、楽しかった経験、充実し満足した経験をしてきたからこそ、今でもサッカーが大好きなんですよな?

そんな人がたくさんいることが、サッカーのもつ力、サッカーの財産です。

お父さんのように、サッカーが大好きで、一生サッカーを楽しむ続けるような子どもに育てましょう。一緒に楽しみ続けるのは、とても大切なことではないですか?



Navi.3

みんな大切な
サッカーの仲間です

レフェリーの判定 を尊重しましょう

子どもたちにこそフェアプレーを伝えたい。



「オフサイド
～!」「レフェリー
ちゃんど反則とし
よ」「相手の反則じゃ
ないか～」といった罵声
が応援席から聞こえてきま
す。一生懸命にそして必死にプレーし
ている自分の子どもやその仲間がレフェ
リーに誤審をされてゲームに負けてもし
たらかわいそう、見ていられない、とい
った気持ちが良く伝わってきます。

何としても勝ちたいと思っている2つ
のチームのゲームが公平に安全に進行
するために、レフェリーの存在は欠か
せません。レフェリーを信頼してくだ
さい。レフェリーはみみなさんよりも近
くで、みみなさんが応援でサッカーをみ
ているのとは全然違う見方でゲームを
みているのです。

レフェリーの判定を尊重しましょう。
もちろんときには間違った判定がなされ

るかもしれないま
せん。同じサッカー
を愛する仲間とし
てそのミスを次に生
かしてもらおうとし
ましょう。

サッカーがうまくなること、勝負に勝
つことだけでなく、子どもたちに教えて
いかねければならない大切なことの一つ
がフェアプレーです。

JFAでは8人制サッカーを審判1人で
行っています。判定が常に完璧にされる
ものではないということや、自分たち自
身でルールを守ることの大切さを子ど
もたちに分かってもらいたいと考えてい
るからです。

子どもは大人の態度を見て学びます。
みなさんのフェアプレーの精神がそのまま
子どもたちのフェアプレーに現れてくる
のです。

Navi.3

みんな大切な
サッカーの仲間です

「○○の子ども」

その子はその子自身です。



二世選手、いわゆる有名選手の子どもが同じ競技をしていることがあり、しばしば話題に上ります。

親がある競技の選手であれば、生まれるたどきから環境の面でその競技が身近にあり、親が必ずしも強制しなくても子どもが同じ競技に親しむケースは多くあります。サッカーでもそれは同様であり、親が選手をしていたというプレーヤーはたくさんいます。

しかし、そういったときに、周囲からとかく「○○の子どもだから」と見られることが多いようです。

うまくいってもうまくいなくても、そういう見られ方をしてしまう。周囲は何の気なしに言う言葉がもしもありませんが、それが本人を太いに傷つけることがあるということを知っておくべきです。

成功しても、「○○が親だから」当たり前、教えてもらっている、等々。うまくいかない、年中親と比較される。自分自身でがんばったのに、そんな一言で片付けられたら、自分を否定された気持

ちになります。

それが苦痛となり重荷となって、サッカーが楽しめなくなってしまう、結局やめてしまうような子どももたくさんいます。そんなことをいっさい言われず、自分を単に一人の人間として認めてくれる場で、何か全然関係のない別のことがしたいと思ってしまうのです。

その子はその子本人であり、自分で好きで、自分でがんばって努力して、楽しくサッカーをしていきます。

それを親との関連で見られること、自分自身が何をどれくらいできようかとできまいと、親との関係でしか見てもられないことは、精神的に苦痛なことです。特に、多感な時期に、本来は誇るべき親を恨むようなことにもなりかねません。

これはなにもサッカーに限ったことではありません。何の気なしに無神経に言うことが及ぼす影響を、少し心に留めておいてください。

